



社会学類への 招待



**A Guide to
College of Social Sciences,
University of Tsukuba**

社会学類へようこそ

— 私たちが重視する2つの点 —

筑波大学社会学類は、50年前の開学当初から今日に至るまで、社会の様々な分野に優秀な卒業生を送り出してきた伝統と実績のある看板学類の1つです。社会学類は多くの特色と魅力をもっていますが、ここでは私たちが重視している点を2つに絞って紹介します。

◆社会科学の基礎を多角的に学ぶ学類

1つは、学生が社会科学の4分野（法律、政治、経済、社会）を幅広く学ぶことを推奨し、そのような教育プログラムを提供している点です。皆さんもご存じのように、21世紀の現実社会では、グローバル化やボーダレス化がますます進むとともに、ダイバーシティ（多様性）が重んじられつつあります。

これは大学で学ぶ場合も同じです。現代社会を分析・理解する場合にも、法律だけ、経済だけを学べば良いといった時代ではなくなってきています。むしろ1つの狭い領域に閉じこもることなく、様々な分野の多様な見方や知識を学ぶことが大切です。またそのように考える学生にこそ社会学類で学んでほしいと考えています。

◆グローバルな視点を重視する教育

2つめは、グローバルとローカルの双方の視点を兼ね備えた学生の育成を重視している点です。今日、折にふれ「グローバル～」という文言が目につきますが、それだけでは一面的です。現代社会では、グローバル化が進めば進むほどローカルな問題の解決も同時に課題となっています。社会学類で幅広く学ぶなかで、グローバル（＝グローバル＋ローカル）な視点を身につけてくれることを、私たちは期待しています。

皆さんは、「すぐに役に立つ」とは「すぐに役に立たなくなる」という言葉を知っていますか。伝統と実績のある社会学類で学ぶことで、時の流行に左右され、すぐに陳腐化してしまうことのない基礎と、斬新で柔軟な考え方を是非身につけてください。

社会学類長 平沢 照雄

目次

筑波大学・社会学類について	
カリキュラム	1
各主専攻の紹介 ● 社会学主専攻	2
● 法学主専攻	4
● 政治学主専攻	6
● 経済学主専攻	8
4主専攻から	10
卒業生の声	12
卒業生の進路	14
「社学生」の生活	16
入学案内	17



筑波大学・社会学類について

社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部、社会学部（ないし文学部社会学科）にそれぞれ所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は高等学校1種（公民）です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で裁判実務の講義を行ったりしています。

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究科（国際公共政策専攻・国際日本研究専攻など）があり、その他に教育研究科、生命環境科学研究科、人間総合科学研究科、システム情報工学研究科、ビジネス科学研究科などがあります。

法学分野では、東京大塚に、社会人を対象とした法科大学院（ロースクール）が設置されています。

社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院（ロースクールを含む）を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

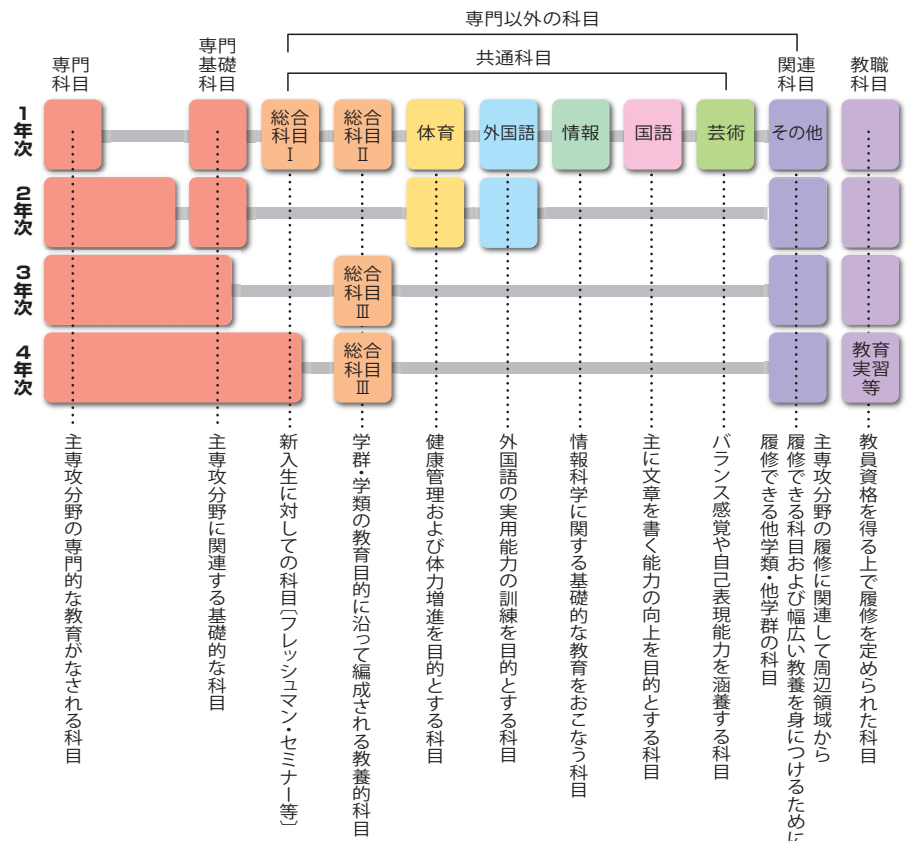
Curriculum

カリキュラム

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかつた学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では体育、外国語、情報、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



社会学主専攻

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらに見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えぬ関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・犯罪・逸脱行動・労働・戦争）、文化論（スポーツ・都市・メディア・知識・歴史）、医療・福祉論（老いと病い・社会保障・介護）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒論タイトル抜粋」を見てみてください）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学研究法および社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開設しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究科（国際公共政策専攻社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。



専門科目講義



つくば子育て支援総合センター



秋葉原見学（社会学演習）

卒業論文タイトル抜粋（平成29年度）

- 地域アイデンティティとスポーツ ●「住みたい街吉祥寺」を求めるのは誰か ●政治家のメディア利用と大衆評価
- 中国人留学生の就職活動における「日本人化」 ●育児における「よい」と「ほどよい」
- グローバル化のなかの老華僑華人の教育とアイデンティティ ●「ひきこもり」経験者の自己の語りなおしにおける困難
- プロ野球における女性ファンの増加と観戦文化の変容



い が ら し や す ま さ
五十嵐 泰正

「都市社会学」「地域社会学」「社会学演習」「社会調査実習」▶【都市社会学／国際人口移動論】▶「大学の中

に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」ごもつとも。否定はしません。「社会は社会に出てから肌で覚えるから、社会学なんていらないよ!」それはどうかな?「社会」には、たくさんの<社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遡れば想像もつかない<社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る<社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの<社会>です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまな<社会>にまみれながら、いくつもの<社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



う ら の え じ そ ん
ウラノ・エジソン

G30 授業
Social Issues in Contemporary Japan, Comparative Society, Public

Policy, Transnational Social Policy など
【国際社会学／国際社会政策】▶移住労働者の増加や企業の国際展開などにより、国家を単位とした公共政策が社会保障、雇用、所得再分配などのニーズに応えられなくなっています。こうした「矛盾」を念頭におきながら、社会政策のグローバルな枠組みについて一緒に考えましょう。



お く や ま と し お
奥山 敏雄

「組織社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【組織社会学／社会システム論／医療社会学】▶教科書に

書いてあることがすべて正しいと思わない態度を身につけることが大切です。社会についてはいろいろな見方や考え方が成り立ちます。様々な社会認識に対して、自分なりの距離を取れるようなタフさが必要なのであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。



か つ ら や ま や す お
葛山 泰央

「知識社会学」「社会学演習」▶【言説分析／知識社会学／フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営

みを特徴付けているのは、さまざまな社会(的対象)をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



ど い た か よ し
土井 隆義

「現代社会学」「犯罪社会学」「社会学演習」▶【犯罪社会学／法社会学／逸脱行動論／社会問題論】▶

社会生活における様々な病理現象を素材に、社会的なものを見方について考える授業を行なっています。社会学というパースペクティブから様々な病理現象をながめると、社会と私たちの関りについて、今まで気づかなかった意外な側面が見えてきます。重大な社会問題と思われるものが、じつは別の側面で現代社会のシステムを支えていたり、あるいは逆に、望ましいと思われていた理念が、その裏側では病理現象を招いていたりすることが分かってきます。授業をとおして、社会病理をめぐる従来の常識を突き崩す面白さを味わうとともに、社会の中で私たちが生きていく意味についてもぜひ考えてください。



の が み けん
野上 元

「歴史社会学」「社会学演習」「戦争と社会」▶【歴史社会学／メディアと情報化の社会学】▶なぜ社会学

をやろうと高校生の頃に考えたのかを思い出してみると、人々の営みを見高から説明することに魅力を感じていたのかもしれない。意外な視点で世の中や人間関係をぱつぱり斬り、物事の捉え方を変化させて、何気なく見えていた風景を変える…。社会学を学べば、まるで自分が世事から超越し、何か偉い人間になれるのではないかと思ったわけである。ただ、今ならそうは考えない。社会は高見から説明できるようなものではないし、つくづくそれは無力な高校生が頭のなかだけで一発逆転を狙っていたようなものだったと思う。



ファン スンヒョ
黄 順姫

「社会学演習」「調査実習」「スポーツ文化論」「教育社会学」▶【教育社会学／文化社会学／スポーツ社会学】

▶社会学の演習では社会学理論と、フィールドでの調査方法を学び、関心のあるテーマで論文を作成します。たとえば「記憶の社会学」では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマで設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コアタウン、秋葉原などで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。



も り なお と
森 直人

「労働社会学」「社会学演習」▶【労働社会学／社会階層論／戦後日本社会学】▶「労働

」をめぐる2つの問題を考察しています。1つは「労働」のあり方を通じて社会の構造的な格差や不平等がもたらされるメカニズム。もう1つは、人が「労働」に必要な知識や技能を身につけ、さらに「労働」そのものによって成長していくプロセス。私たちは社会の「あるべき姿」にむけて「格差是正」や「制度改革」を性急に求めがちですが、そこで前提として自明視されている《常識》はしばしば実態とかけ離れた歪んだ像を描き、善意にもとづく問題解決に向けた介入が「意図せざる結果」をもたらすことも多くあります。社会学はこうした矛盾をはらんだ複雑なメカニズムを解明していくためのツールなのです。

法学主専攻

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題、少年犯罪、児童虐待の増加等、「法的」な問題を毎日のように目にします。また、国際化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えています。法律というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・国際化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心においており、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することが、なによりもまず求められます。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切妥当な観点と判断力が、まさに法的なものの方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールや、卒業論文執筆（任意）にいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています（うち約2割が公務員）。また、法科大学院へ進学し法曹を目指す卒業生のほか、研究大学院や政策大学院に進学する卒業生もいます。



演習の風景



専門科目の授業風景



模擬法廷を使った授業風景

演習テーマ抜粋（平成29年度）

- 民法財産法の判例研究 ●ヨーロッパにおける錯誤理論の比較法史 ●民法の基本問題点の検討 ●信託法の問題点の検討
- 交渉技術の検討と実践 ●株式会社の企業統治に関わる機関 ●企業統治…社外取締役を巡る動き ●刑法学 ●模擬裁判
- 高校生を対象とした主権者教育教材の作成 ●死刑制度の是非 ●刑事訴訟法の基本的問題 ●刑事政策にかんする諸問題
- インターネットと法 ●ジャーナリズムと法 ●国家公務員、地方公務員（県庁、市役所）、法科大学院試験対策



つじ ゆういちろう
辻 雄一郎

「憲法Ⅰ」「憲法Ⅱ」
「憲法Ⅲ」「行政法」
「法交渉学」▶【情報
法／環境法】▶大学
生活希望に満ち

た生活とはいえません。権威となる通説や正解が存在せず、学説の対立する混沌の世界に投げ込まれ、現実と理想との間の乖離にとまどい、将来の設計図を自分の責任で描かなければならない「苦痛」の時期です。人生で成功する客観的な正解が存在しない世界を前に苦悩し、血肉の通った他者の生き方に触れ、自分の生き方を試行錯誤し、「実験」する。大学を卒業して初めて大学生活の「楽しさ」に気づくのかもかもしれません。



ねもと のぶよし
根本 信義

「裁判実務Ⅰ」「裁判実務Ⅱ」
「刑法総論」「刑法各論」「裁判実務演習」▶【裁判実務／法教育】

▶4年間はあっという間に過ぎてしまいます。知的好奇心を発揮して、興味をもったことには積極的にトライしてみてください。また、興味あることを見つけるためにも読書は大事です。手始めに新書から読み始めてはどうでしょう。法とはそもそも何なのかを知りたい人には、橋爪大三郎「人間にとって法と何か」(PHP新書)や木村草太「キヨミズ准教授の法学入門」(星海社新書)を、社会科学の新しい方法論に触れたい人には、亀田達也「モラルの起源」(岩波新書)を、相手を言い負かす議論に疑問を持った人には、苦野一徳「はじめての哲学的思考」(ちくまプリマー新書)を勧めます。興味をもったら、さらに専門書へとステップアップしてください。



はぎわら かつや
萩原 克也

「商法Ⅰ(総則・商行為)」「会社法」「有価証券法基礎」「電子記録債権法」「金融商品取引法」▶

【運送法(海上・航空)／有価証券法】▶商法の分野は複雑に見える部分もありますが、基本は「合理性」を追求した「実用的な制度と解釈」です。マニュアル思考とは違う法的なものの方・考え方、論理性を習得し、社会にでたら起業家になったり、専門知識を生かして主体的に生きていこうと考えている方を歓迎します。まずは堅苦しく考えずに飛び込んでみてください。

ほしの ゆたか
星野 豊

「契約」「債権総論」「信託法」▶【民法／信託法／金融法】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。



みやさか わたる
宮坂 渉

「民法総則」「物権」「法制史」「比較法」「Law and Society in Japan」▶【民法／ローマ法／西洋

法制史】▶法律や裁判は、自分とは関係ない世界の話のように聞こえるかもしれませんが。でも何故?今までは君が困ったら、家族や友人や学校の先生が助けてくれたでしょう。けれども世の中それでは解決できない問題が沢山あります。誰も助けてくれない。そんな君が最後に頼ることができるもの、それが法律であり裁判です。君がそこまで追い込まれていないなら、なぜ法律や裁判が必要か直ぐには分からないかも。でも人間には共感する力が備わっています。自分がそうになったらと想像して、実際にそうなった他人の気持ちを理解できるはず。そうした共感力を社会学類での4年間で培ってください。



もりた ちほこ
守田 智保子

「刑事訴訟法」「刑法総論」「Global Society and Criminology」「法律外書講読Ⅰ」▶【刑事訴訟法／証拠法】▶法を学ぶことは、将来、司法試験の受験を目指す人、専門的な職業に就く人にとってのみ必要なのではありません。私たちは、日常生活で法的問題と無関係ではられません。問題を生じさせないためにも解決するためにも法律が必要です。しかし、法律は、存在するだけで困った者を助ける魔法のアイテムではありません。これを人がどのように理解し扱うのか、が重要です。その人の立場だけでなく、時代や文化によってもその答えは変化し、唯一の正解はないでしょう。悪戦苦闘しながら自分の答えを見つける作業のなかで身につけた力は、大学卒業後にどんな道に進んでも、大切な唯一無二のアイテムになるはずで

政治学主専攻

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものの見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



専門科目の演習および講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成29年度）

- 外国人材の受け入れと日本の労働力人口の減少への対応
- 選挙制度と投票率
- 若者はなぜ選挙へ行かないのか
- 日本の参議院および執政-第二院関係の考察
- 日本政府の“働き方改革”と女性の社会進出
- 日本の女性議員に関する比較研究
- 現代日本のイデオロギーと政党
- 東南アジアにおける治安機構内の政治
- 現代フランスの移民政策と「共和国思想」についての研究
- 日本におけるポピュリズムとメディア
- アメリカの核政策
- 国会改革と国会審議活性化法
- 日本の社会保障の発展過程
- PPP/PFIによる地方創生
- アメリカにおける銃規制政策
- 育児・介護休業法に関する政策過程分析
- 障害者福祉政策の決定過程に関する考察
- 行政の肥大化と官民連携事業
- 韓国の大統領制の制度的考察
- 政官関係の変化と政策決定
- 文教政策の意思決定プロセスの分析
- 福祉国家日本の就労支援政策
- グローバル・ジハード論の再検討



あかし じゅんいち
明石 純一

「国境を越える政治」▶
【移民・難民研究／アジア地域の国際人口移動の分析／グローバルガバナンス】▶人（あるいは労働力）・物（商品）・金（資本）、そして情報があたかも自由に国の境界線を越えているかにみえる現代社会を、「ボーダーレス」と形容することが増えました。グローバル化により世界は「ひとつ」になる、ということも頻りに語られます。しかしそれはどこまでが本当のことなのか。そもそも「国家」、「国境」、「国籍」、「国民」とは、いかなる実体を表す概念なのでしょう。世界各国を放浪していた大学時代にふと頭に浮かんだこの疑問に取りつかれ、今もまだ回答を探している最中です。政治学を含む社会諸科学の習得と行動による実体験を通じて現代社会の変化と普遍性を理解すること、そのような学びの場をみなさんと共有したいと考えています。



こんどう やすし
近藤 康史

「政治思想」「政治過程論」「現代政治分析」▶
【政治理論・思想／福祉国家論／イギリスを中心とした現代ヨーロッパ政治】▶政治学を志す理由の一つに「社会を良くしたい」というものがあるでしょう。しかし、自分にとって「良い社会」が他人にとっても「良い」とは限りません。社会には様々な考え・価値を持つ人々が存在するからです。その多様性を踏まえながら、いかに平和的な共存の方法を見出すか、これこそが政治学の根本的な問いです。その問いへ向けて、まずはできるだけ多様な人々との付き合いやコミュニケーションを通じて様々な考えや価値に触れてみましょう。それが政治学への第一歩です。



すずき そう
鈴木 創

「比較政治学」「アメリカの政治」▶【現代アメリカ政治／議会研究】▶新聞やテレビで政治が語られない日はありません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



せき かつのり
関 能徳

「Politics and Society」
「Fundamentals of Japanese Studies」
「Global Political Economy」(Global 30 Program)▶比較政治学／計量政治学／民主化・独裁体制／選挙アカウンタビリティ▶政治学者とは一体何者でしょうか。経済学者が企業の社長でないように、政治学者は政治家ではありません（稀に政治家に転身する人もいますが）。政治学者が担う大きな仕事のひとつは、政治現象に関する既存の説明を批判的に評価した上で、まだ答えの出ない問いを発見し、それに答えることで新たな知識を生産することです。政治学を専攻する学群生は、抽象的なものの考え方を発達させることを通して、知識のよりよい消費者になることが期待されます。とはいえ、ただの消費者でいるのはあまり面白くありません。知識の生産者の側に加わられたら、どれだけ気分爽快でしょうか。そのためには、常日頃「なぜ」と問い続けることです。凡庸な問いかもしれないと恐れることなく、「なぜ」と問い、答えを探し続ける4年間を過ぎてみてください。その過程で、世界の誰もまだ知らなかった答えに辿り着けるかもしれません。



たけなか よしひこ
竹中 佳彦

「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交 I・II」▶【政治学・日本政治論（イデオロギーと政治意識、投票行動などの計量分析／戦後の政治外交史・思想史）】▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培ってください。



ちば じっしょん
崔 宰栄

「計量分析入門」▶【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。



ふるた ひろし
古田 博司

「東洋政治思想」「情報戦略と政治」▶【東アジア政治／北朝鮮・韓国政治／東洋思想史／朝鮮史】▶近代を支えていた様々な擬制が壊れ、こちら側だけでは普遍を指向できない時代が訪れています。従来の学問の通説がいつの間にか現実妥当性を失って屑かご送りになる、そんなことはもう日常茶飯事です。ニーチェは19世紀の人ですが、『権力への意志』のなかで、すでにメタ物語を破壊し、その先のものまで斬りつけています。いわく、「現象に立ちどまって『あるのはただ事実のみ』と主張する実証主義に対して、私は言うであろう、否、まさしく事実なるものはなく、あるのはただ解釈のみ」と。でも人間は世界の解釈をしなければ世界に住んでいられません。世界を何々圏という圏に分けて認識したり、検索エンジンのように全ての項目をあげてそれを類型化したりする、新しい学問の方法も模索されています。私の講義は、いま謙虚にこの時代に向き合い、真摯に格闘することから始められます。参考書は、古田博司『ヨーロッパ思想を読み解く - 何が近代科学を生んだか』（ちくま文庫）を挙げておきましょう。



まつおか ひろし
松岡 完

「政治外交史」「アメリカ外交史」▶【アメリカ政治外交史／冷戦史／ヴェトナム戦争史】▶受験勉強中のみなさんは、世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらないと思っているのでは？でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の政治外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。



みなみやま あつし
南山 淳

「国際政治学」「国際紛争論」▶【国際政治理論／国際安全保障／グローバル化と国際紛争】▶「1人を殺せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです…」映画『殺人狂時代』（1947）の中でチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、他者の生命を理不尽に奪うという意味で、殺人と戦争の分岐を犠牲者の数に求めることは一面の真理かもしれません。ただ誤解してはならないのは、大量殺戮の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦闘行為における殺害を正当化するという点です。戦争の目的が正しいか否かの判断は、人によって、国によって、時代によって変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

経済学主専攻

経済学への招待

経済学は、社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野です。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視します。また自然科学と同様に、明確な仮定を設定し、それを客観的データを用いるなどして論理的に明らかにしていきます。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、現代の社会問題を客観的に、そして検証可能な形で思考するために必要不可欠な手段です。

教育方針と特色

経済学主専攻では、経済学の基礎的な分析手法を段階的に学ぶことができるカリキュラムを設定しています。これに加え、理論や政策から歴史および現状分析に至る教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題を体系的にとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、キャンパスを飛び出して工場見学を実施したり、日本銀行や証券取引所見学を実施するなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、教職、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



工場見学（クリーンルームにて）



講義風景



横浜国立大学と合同演習後の集合写真

卒業論文タイトル抜粋（平成28～29年度）

- 適応動学の相違が選好進化ゲームの安定状態に与える影響 ●主体思想と北朝鮮の経済
- 資源の発見をもたらす他産業への影響の分析 ●地方公共財の費用分担問題の協力ゲーム理論による考察
- 期待が為替レートに与える影響 ●シグナリング・ゲーム理論による海外直接投資の分析 ●市場原理導入による医療の効率化



いけふじ まさこ
生藤 昌子

Global 30
Program:
Principles of
Economics,
Mathematical

**Economics, International Social
Studies II ▶【マクロ経済学／環境経済学】**

▶経済学の原理の一つにトレードオフがあります。何かを得るために諦めなければならぬものがある、ということです。何かを諦めてでも経済学の勉強を選択した判断と今という時間を大切にしてください。なぜなら経済学を学ぶことで社会現象を見るときや、今後の様々な場面での判断に重要な視点を示してくれるからです。そして、大学生活で多くの人に出会うことで自分自身を磨いていってください。



しのつか ともいち
篠塚 友一

「経済学基礎論」「ミ
クロ経済学」「産業
組織論」▶【ミクロ
経済学／社会的選
択理論／厚生経済

学】▶某大学の経済学部を受験すべきか商学部を受験すべきか迷っていたとき、当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学（線型代数、微積分）や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。



たかはし ひでなお
高橋 秀直

「現代経済史」「経
済学入門演習II」▶
【経済史／金融史】
▶知識は断片的な
情報を相互に関連

付けて整理したものです。高校までの勉強は、他の誰かが整理した教科書や受験参考書を利用するだけでした。でも、私は、他人の視点を身につけることから一歩踏み出して、自分なりのものの見方を手にしたいと思っています。新しいことを学ぶ度に、自分がすでに知っている知識と関連付ける練習を続けています。授業を通じてその一端を伝えられれば幸いです。



なか しげと
仲 重人

「公共経済学」▶【公
共選択論／公共経
済学】▶人は、自分
が社会関係を通じ
て形成した眼鏡を

とおしてこの世界を見ています。眼鏡の良し悪しについては絶対的な基準はないかもしれませんが、しかし、少なくとも、経済学的手法は、一つの代替的な、かつ、とても興味深い眼鏡を提供してくれると思います。私の場合はそうでした。これは、自分と社会を認識している自分の視座を変革し、異なるレベルの満足と理解を得るために役に立つかもしれません。



ひらさわ てるお
平沢 照雄

「地域経済論」「日
本経済史」「日本経
済論」「経済学演習
V」▶【現代日本経
済史／地域経済・

産業論／中小企業論】▶グローバル化が進む中で、今日の日本経済・地域経済は大きな転換期にあります。日本経済は、どのような歴史を経て現在に至り、今後どのような方向に向かおうとしているのかに興味をもち、日本経済・地域経済の歴史と現状について学びたいという意欲的な学生に出会えることを期待しています。



ひらやま あさし
平山 朝治

「経済思想史」「経
済学演習VI」▶【経
済思想／経済シス
テム・文化・思想
の進化と持続／日

本社会】▶大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分でものごとを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間的余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持てあましたり、自由に背を向けること（カルトにはまるなど）にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思います。



ふくずみ まさかず
福住 多一

「経済数学」「基礎
経済数学」▶【ゲー
ム理論／進化ゲー
ム理論】▶経済学は
科学です。その体

系の理論的本質の多くは、数学で記述します。これを理解するには、冷徹な論理的思考力が必要です。ただし科学的に解明する対象は、社会現象とそれを構成するヒトです。これを理解するには、社会やヒトに向けた温かい眼差しと豊かな心が必要です。このように、経済学は理系・文系の境界が無い新しい総合科学です。この若い科学を意欲的な皆さんと成長させたいと思っています。



みつのわ まり
箕輪 真理

「開発経済学」「経
済学演習X」▶【開
発経済学／ラテン
アメリカの経済／
開発政策／社会開

発】▶世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどうすごし、何を考えて、いかに生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえたら願っています。

4 主 専 攻 か ら

社会学主専攻 × 安達 美桜

皆さんは、大学で学びたいこと、そのまとめとして取り組む卒業研究等に具体的なイメージをお持ちですか。既に明確な目標を見据えている方も、自分が何を学び、将来どのようなキャリアを歩むのかをまだ考え切れていない方もいらっしゃると思います。私が受験生の頃は後者のタイプで、ひとつの分野に関心を持つというよりも、文化や観光、メディアなどに興味があり、分野が絞り切れてはいませんでした。そんな時に目に留まったのが社会学専攻です。

社会学とは、社会における集団や他者との関わり方などから社会の仕組みを考える学問です。社会的な観点から考察できるものであれば、世の中のほとんどの事象が研究対象となります。例えば、労働、医療、犯罪...私は、研究テーマの自由度の高さが社会学専攻の魅力のひとつだと思います。

実際に私は4年間社会学専攻として、メディア社会学、教育社会学、「戦争と社会」など様々な分野を勉強してきました。吸収した幅広い知識を用いて、以前よりも広い視野で物事を捉えられるようになりましたし、家族社会学の知識が労働社会学の学びに役立つなど、ひとつの問題を多角的に検討する力が培われました。さらに社会学類では、隣の主専攻の科目を通じて、経済・政治・法などの視点から家族や労働について考えることもできます。

もちろん、社会学専攻の学生の中には、入学当初から都市社会学について学びたいという意志を持ち、4年間を駆け都市社会学について深く学んでいるような学生もいます。社会学専攻では「深く突き詰めて」学ぶことも「幅広い視野を持って」学ぶことも可能です。皆さんも社会学専攻でキャリアの可能性を広げ、自分の価値観を深めてみませんか。



法学主専攻 × 中西 烈

私は高校生の時に警察官を志し、大学では社会のルールである法律を学びたいと考えました。社会における「正しさ」を自分で判断する力を身につけ、警察職務に活かしたいと思ったからです。しかし本学で学問としての法を学ぶにつれ、法律が存在するからと言って人の行為における「正しさ」の線引きが直ちに可能になるわけではない、と感じるようになりました。正しいことは、一つに定まりません。それは法律自体においても同様です。法律に触れて得られる具体的な知識と、講義や演習を経て養われる法を扱う感覚の二つが合わさり、法的問題に対する自己の意見が形成されます。それは人によって異なるものであり、法を通して生まれた価値観です。他者の価値観に触れることが更なる法の理解につながり、自分の将来においても活かされると感じています。

また、筑波大学の特色として、専攻や学類間の垣根が低いことがあげられます。そのため、社会学や政治学、経済学の授業や他学類分野に触れるにあたり、法学の知識を活かすことでより多面的な学習をすることができます。法律は社会における基本的なルールであり、様々な学問とつながる部分があるからです。それは逆に、法学に限らず幅広い分野を学ぶことができるからこそ、法学のより深い理解が可能になるとも言えます。

さらに、法学専攻におけるゼミ活動も魅力の一つです。ゼミは比較的少人数で構成されるため、教授や他の学生と積極的な議論を行う場になります。発表・議論を通じて判例や学説の理解を深めるとともに、他者の価値観に触れて自己を見つめ直すことができます。

法律は、いつも私たちの生活のすぐそばにあります。筑波大学で法律を学ぶ選択を、私は強くお勧めします。



活躍する学生 秋田 耕平

「大学は社会の縮図」。筑波大学に入り、そう感じることが多くあります。

私は筑波大学新聞の編集長として、年7回、毎月約2万部の新聞を編集・発行しています。取材から記事の執筆、紙面製作まで全て学生の手で行っています。

入学当初、「記事を書いてみたい」という簡単な思いから入部しました。実際、これまで50本以上の記事を執筆してきました。スポーツの試合や学芸の発表のような学生に身近な話題から、大学改革や予算など社会的な問題まで幅広い話題を取材するため、学生ながら貴重な経験をしています。そうした場で、社会学類で学ぶ社会学の視点や法学、政治、経済の知識を生かすことができている。まさに、「大学は社会の縮図」であることを実感しています。

筑波大学新聞は、社会的にも評価されています。朝日新聞社が主催する「大学新聞コンテスト」では昨年、連載賞を受賞しました。

このような経験ができる大学はなかなかありません。皆さんも、社会学類で有意義な大学生活を送ってみませんか。



活躍する学生 辻田 小春

私は、日本にいる難民や、難民申請中の外国人の方々に支援するサークルで代表を務めました。活動内容としては、難民申請中で、日本に在留する資格がないため施設に収容されている方々と会ってお話したり、日本語の勉強をサポートするために教材を差し入れたりしました。また、それらの経験を活かしながら、筑波大学生や一般の方々を対象に、難民問題を身近に感じてもらうためのイベントを開催しました。

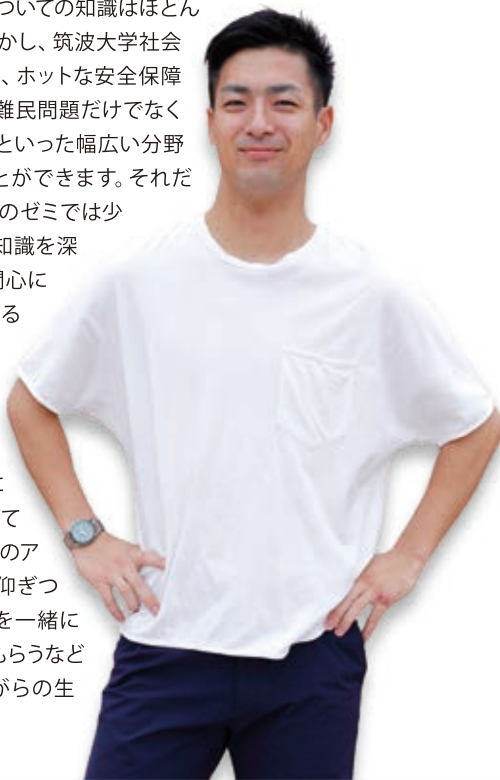
多岐にわたる学群・学類を抱える筑波大学ならではの良さとして、多種多様な学問を学ぶ学生と交流できるということがあります。私たちのサークルでも、学生たちが各学類の専門性を生かし、「難民問題」に対して様々な切り口から意見を出し合うことで、議論を深めることができました。

大学生になると、自分の自由にできる時間が一気に増えます。その時間を有意義にするための「学生でもできること」「学生だからこそできること」の種は、筑波大学にはたくさん転がっていると思います。

政治学主専攻 × 生沼 徹訓

政治とは社会科学を学んだり、考えたりする上で必ずと言って良いほど関わってくるものです。例えば、何かを輸出したり、企業が進出したりする経済を考える場合でも輸出先、進出先の国の政治状況、規制があり、どうしてもそれらを考慮しなければなりません。それは、国の政治状況が反映される法律、文学を学ぶ上でも然りです。つまり、政治を知ることが世の中の事象を幅広く知る契機になるということです。社会の仕組み、世の中の出来事を学ぶことで知識的な豊かさの追及にもなります。そして何よりも物事に対して自身の意見を持つ、多様な価値観を持った人と喧々諤々と議論を交えることで多様な考えを知ることが政治学を学ぶ上での最大のメリットだと思います。これは、学問を飛び越え、人としての自己成長、自分という軸の形成にも寄与し、今後の社会人としての素養にもつながります。

私自身当初は政治についての知識はほとんどありませんでした。しかし、筑波大学社会学類の政治学専攻では、ホットな安全保障の問題やグローバルな難民問題だけでなく他国の政治、政治思想といった幅広い分野もまんべんなく学ぶことができます。それだけではなく、3年次からのゼミでは少人数制でより専門的な知識を深めるとともに、自身の関心に沿った分野の研究をすることができます。私は国際系の政治学のゼミを受講していますが、他国の経済や、日本の政策などを考慮に入れ、ゼミ論を作成しています。研究にあたってのアドバイスなどを先生に仰ぎつつ、意見や疑問点などを一緒に受講している友人からもらうなどをしてとても充実しながらの生活を送っています。



経済学主専攻 × 武田 梓

みなさんは食べ放題のお店に行った時、できるだけ沢山食べた方が得だと思いませんか？確かに、金銭的な損得で考えるといくら食べても料金は一定なので量を増やすことが良いように思えます。しかし、経済学では必ずしもそうは考えません。満腹になるまでは食べた分幸せになりますが、それを超えると苦しくなり、幸せな状態から離れていきます。経済学は人々の満足感を最大にすることを追求する学問です。つまり、ここでは限界を超えて食べ続けることではなく、自分にとって丁度良い程度で終わらせておくことで最大の満足を得られると考えます。ただ、“丁度良い程度”には個人差があるため、お店はそれを考慮した理想の料金設定にしているだけなのです。

私が経済学に惹かれたのは、文理が絶妙に融合している分野だからです。人間や社会という不確かなものを相手にしながら、数学や論理的思考といった明確な手段を用いて解明を試みるところに面白さがあると思います。社会現象を分析する時に常識論のみで根拠がなければ相手を説得させることはできません。数理モデルを利用し根拠を明らかにすることで、建設的な議論ができるのです。

筑波大学の社会学類で経済学を学ぶことの魅力は、他専攻の授業を受け、幅広い知見を身につけられることです。1つの社会課題をとっても経済学的に考えるのと社会的な見方をするのでは、全く異なるものが見えてきます。多角的な視点を持つことは、視野を広げ多様な価値観の理解にもつながります。

私は今後、交換留学制度を利用して海外で経済学を学びたいと思っています。学問に限らず挑戦したい事を見つければ、それを可能にする大学生活を自分で設計できます。みなさんも社会学類でやりたい事を見つけ、有意義な生活を送りませんか。



海外留学の勧め 佐々木 志帆

海外留学と言えば、外国語に関係する学部の学生がするものだと思いませんか？筑波大学では、学部間だけでなく大学間で提携をしている海外の大学が数多くあり、毎年社会学類の学生もそれを利用して留学しています。私は交換留学制度を利用して台湾で10か月中国語を勉強しました。留学では語学の習得はもちろん、その土地の人々や文化、さらには異なるバックグラウンドを持った海外の学生と関わることで、それまでの日本、そして世界の見方を大きく変えられてしまうような経験を数多くすることができます。また、人によってはその地でインターンやボランティアに参加する学生もあり、留学は間違いなくその後のキャリアに繋がる経験になります。期間は、長期だけでなく短期のプログラムも多数提供されています。さらに社会学類では英語での授業も開設しており、大学内でも留学生とともに授業を受ける場や、交流する場を見つけることができます。あなたも、世界を見るべく、留学しませんか？



編入学の勧め 長谷川 知功

私は、3年次編入によって筑波大学へ入学しました。社会学類の魅力は、なんといっても複数のゼミに所属することが可能であり、専攻以外にも様々な分野について幅広く学ぶことができる点です。社会学、法学、政治学、経済学の講義を履修することができるため、問題に対して広い視野から様々な問題意識を持ち、多角的に捉え、考察する力を身につけることができます。私も法学と共に、社会学や政治学のゼミに所属しています。私は以前の大学でも法学を学んでいましたが、より流動的で柔軟な対応が求められる現代の複雑性を増す社会問題に対応するには、法学という一側面のみならず、多様な側面から問題を検討する必要があると感じ、広く社会科学を学ぶことができる社会学類への編入を決めました。また、とても盛んなサークル活動では、編入生を非常に暖かく迎え入れてくれます。ぜひ、みなさんも社会学類で、勉強にサークルと充実した大学生活を送ってみませんか。

社会学主専攻卒

株式会社リクルート
経理統括室経理推進部

武田 栄華



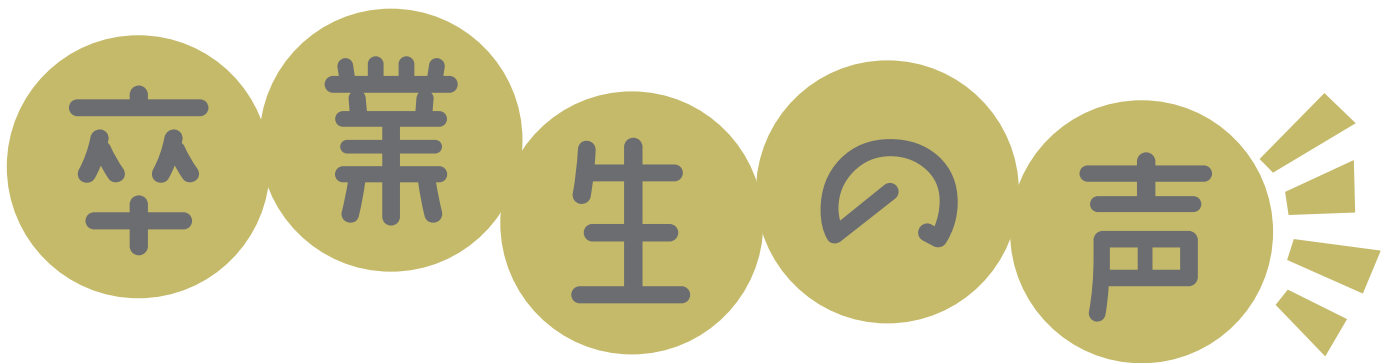
「社会学ってなんだか楽しそう!」そんな漠然とした気持ちを抱えて、私は筑波大学の社会学類に足を踏み入れました。日本と中国のクォーターであり、幼少時から両国を行き来する生活を送っていた自分は、社会制度や文化の違いがそこで生きる人々の生き方に違いをもたらすのではないかと考えていたため、社会学という学問に興味を抱きました。

私は1年休学しアメリカ留学をしたこともあり、専攻を決めてから約4年間の間、社会学を学び続けました。幅広い研究対象の中から、関心を抱いたトピックにとことん向き合っていく過程で獲得したのは、問題に向きあう態度のようなものです。無意識のうちに囚われている枠組みから脱却し、事象を様々な方向から眺め、相対化することが習慣となっていきました。

この習慣は、会社員として働く今でも非常に役に立っています。現在、私は株式会社リクルートの経理統括室で働いています。企業活動を財務会計のルールに基づき適切に表現することが主要な業務ですが、自分の所属組織がどうすればより良い成果を出せるのか、最新の技術をどのように使用すればより良い労働環境を目指せるのか、様々なミッションを遂行しています。問題を解決していく過程で、現状の仕組みを根本から疑い、俯瞰的な視点から検討をしていくことが必要になりますが、これは大学での経験があったからこそできていることだと思います。

現在の仕事を通して、企業活動の根幹となる「お金」の仕組みを理解し、将来的には自分の生きる世界をより多様性に満ち溢れた暮らしやすい環境にしていくために、その力を利用し貢献していきたいと考えています。このような考えに至ったのも、社会学を学んだからこそであり、大学での学びは自分の生き方や考え方の土台を作り、人生を豊かにしてくれた財産だと思っています。

みなさんもぜひ社会学のドアを叩き、自分の興味のあることにめり込んでみてください。きっとその経験はみなさんの人生を豊かにすることでしょう。



政治学主専攻卒

千葉市役所
美浜区社会援護課

糸井 千晶



私は、「良い政治とは何か」と考えたのが政治学を専攻したきっかけでした。例えば、私が反対している税制改正に対して、友人は賛成の立場をとっていたりして、政治の決定に際して様々な意見がでるものです。それはつまり「良い政治」は、政治の決定を受け取る側が“どの立場にあるか”によって異なるということを示しています。しかし、多様な立場の人が生きる中で、どのような形であれ一つの決定をしなければなりません。加えて、その決定は、国やそこに属する構成員によって全く異なるということも少なくありません。

かく言う私は、学生時代に国家間で就労支援政策の比較研究をしていました。就労義務の強制力の強い国もあれば、日本のように、特に

罰則もなく強制力の弱い国もあります。このように国によって政策の中身が大きく異なった時、あるいは一般に考えられない結末を迎えた時、それは政治学の問いになります。決定に至るまでのプロセスで、誰が、どのようなアイデアに基づいて、どのような制度下で、どのような影響力を及ぼしたのかについて分析しますが、これが分析できるようになることで現在発生している問題の解決の糸口を探ることができるようになります。政治学を学ぶ最大の魅力です。

政治学主専攻3～4年次のゼミ活動では、毎週の新聞論評や書評の執筆、他大学との合同ディベート等を通して、多岐にわたる政策決定に関する政治学的分析を行うことによって、その結果に至った原因を推論する力を養うことができました。現在は、千葉市に入庁して、ケースワーカーをやっています。生活保護法に基づき執行する業務ではありますが、複雑な問題を抱える被保護者に対する自立支援を考える際に、政治学主専攻で学んだ原因を推論する力は非常に役立っています。是非皆様も政治学主専攻へようこそ!

法学主専攻卒

茨城県庁
つくば保健所

高野 みなみ



人の役に立つ仕事がしたい。高校生の時から漠然とそう考えていた私が選んだのがこの学類でした。決め手は広い分野を学ぶことができること、そして主専攻を入学してから決められることでした。もともと法律には興味を持っており、実際に大学で学んでいくにつれ、自分が生きている社会のルールの意味やルーツを探れることに魅力を感じ、法学主専攻に進みました。

皆さんは法律に対してどんなイメージをお持ちでしょうか。堅苦しい？守って当然？読んでも何を言ってるんだかわからない？勿論あまり身近に感じられないという人もいるでしょう。法律はルールです。背けば罰を受けるものもあれば、受けないものもあります。人を守る

ための法律もあれば、法律を運用するための法律もあります。様々な人がいて、色々なことが起こる社会には、本当に沢山の種類の法律があります。そんな法律を学ぶためには、「なぜあるのか」「何のためにあるのか」と考えることが必要です。私は刑事訴訟法ゼミに所属し、刑事裁判や刑事事件の捜査に関連する法律を学んでいましたが、その条文1つ1つにもそれぞれ目的があります。そして、「なぜ」「何のために」を考えるためには、法学だけではなく、他分野に興味を持つことも大切になってきます。

さて、冒頭で人の役に立ちたいからこの学類を選んだと書きました。現在私は茨城県の職員として法律に関わりつつ、県のため、ここで生きる人のため役立つべく働いています。いま関わっている法律は大学で学んだことのあるものではありませんが、在学中に培った「なぜ」「何のために」といった考え方は役立っています。みなさんも社会学類で法律を学び、自分自身の考え方や感覚を磨いてみるのはいかがでしょうか。

社会学類の先輩達は当時どんなことを考え、 どんな学生生活を送っていたのか？ 今は卒業し就職した先輩達に聞いてみました。

経済学主専攻卒

人事院
齊藤 駿介



歴史的経路依存という言葉聞いたことがありますか。

キーボードのQWERTY配列などが有名ですが、ある制度や仕組みが歴史的経緯や偶然によって一般的になると、当初選ばれた理由とは関係なくその後も選ばれ続けることをいいます。

世の中には、私たちが所与のものとしている常識をはじめ、個人・組織の意思決定や社会問題など、数多くの歴史的経路依存があります。

一方、現代社会は大きな転換点にあり、これまで「所与」とされてきたことが、技術革新やグローバル化、価値観の変化によって大きく変わりつつあるのもまた事実です。

社会の変化が激しくなり、変わるものと変わらないものの境界が不

明確になっている中で、社会科学に必要とされているものは、変化の本質を見抜く力ではないでしょうか。

社会学類にはこの力を身に付けるための環境が整っています。

4つの分野を横断的に学ぶことで、一つの事象を異なる分析視点で見る姿勢を養うことができます。ゼミを中心とした少人数教育では、学生間で議論し、教員にも率直に質問し、意見が言えることで、漠然とした問題意識ではなく、自らが明らかにしたい対象を具体化しながら学ぶことができます。

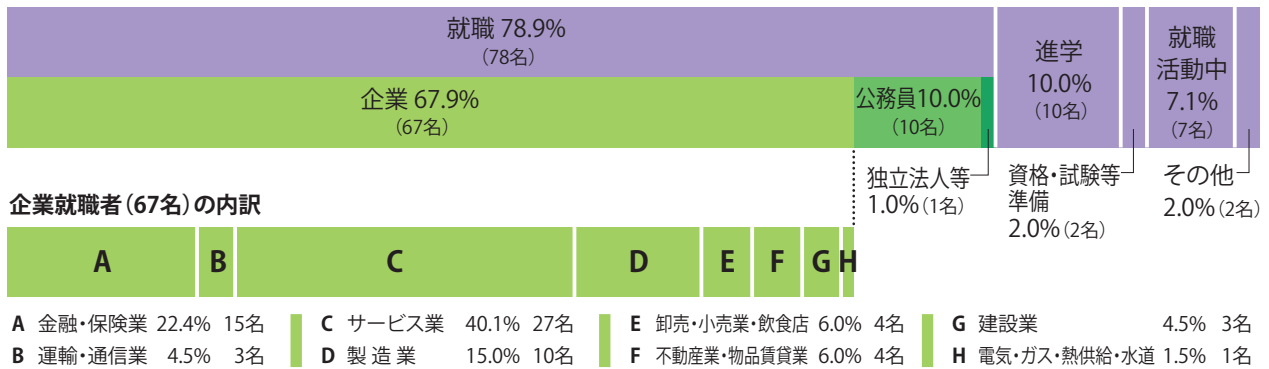
大学卒業後、私は国家公務員の人事管理を担う人事院という機関に就職しました。人事行政は、施策の影響が長期にわたり、職員の生活に与える影響も大きいことから、性急な変化は難しい分野です。しかし、社会が激しく変化の中で、公務もこれまでとの連続性を保ちつつ様々な変革が必要になっており、表面的ではない変化の本質を捉える力は非常に重要であると感じています。

最後となりましたが、この話が皆さんに多少なりとも社会学類に興味を持っていただくきっかけとなれば幸いです。自分にとっての成長の場として社会学類を選んでくれることを期待しています。

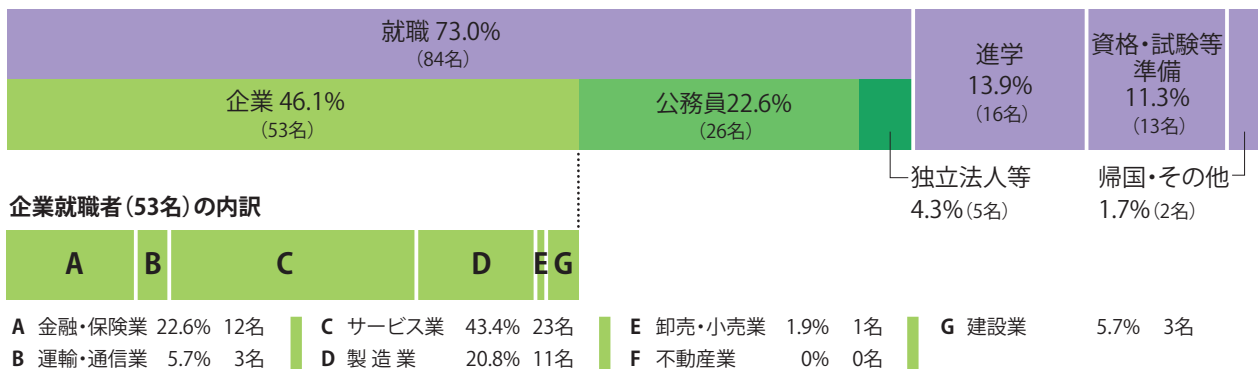
卒業生の進路

最近の傾向でみると、就職する者が約7割に達し、その就職先は多岐にわたります。特に金融、メディア・情報通信、サービスならびに製造業分野に強く、多くの人材を輩出してきました。また公務員の道を選ぶ者も多く、全体の約2割をしめます。一方、大学院進学や司法試験・公認会計士などの資格試験の準備をする者も、同様に約2割をしめており、将来、研究職や高度な専門職につく卒業生も少なくありません。

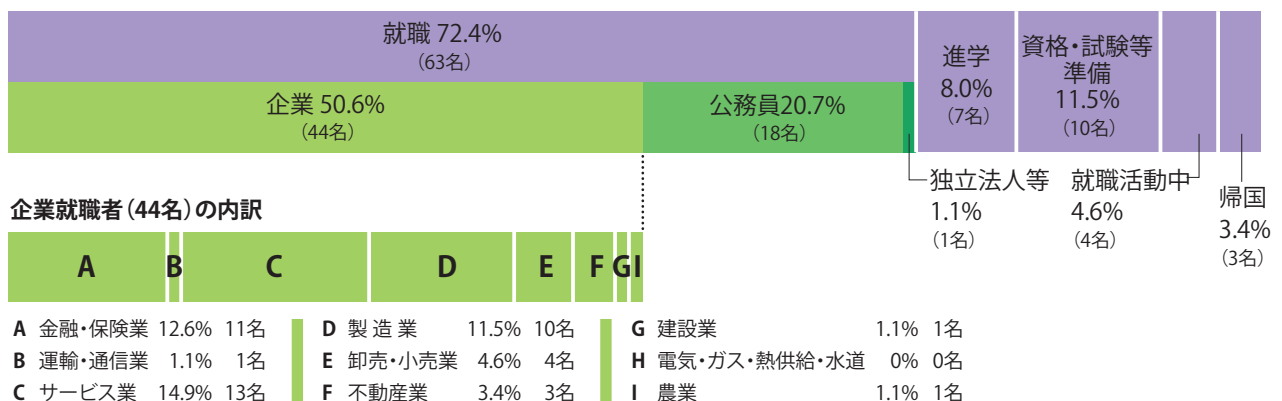
平成29年度【卒業生 99名】



平成28年度【卒業生 115名】



平成27年度【卒業生 87名】



最近5年間の主な就職・進学先 (平成25～29年度)

銀行・信託業

三井住友銀行
みずほ銀行
ゆうちょ銀行
りそな銀行
常陽銀行
静岡銀行
山口銀行
阿波銀行
秋田銀行
ジャパンネット銀行
三菱UFJ信託銀行
みずほフィナンシャルグループ
ジェーシービー
りそなグループ
商工組合中央金庫 など

保険・証券業

第一生命保険
日本生命保険
住友生命保険
明治安田生命保険
ソニー生命保険
アフラック生命保険
オリックス生命保険
東京海上日動火災保険
損害保険ジャパン日本興亜
AIG損害保険
野村証券
みずほ証券 など

新聞・放送業・出版業

朝日新聞
読売新聞
日本経済新聞
毎日新聞
西日本新聞
信濃毎日新聞
東洋経済新報
産業経済新聞
北日本新聞
福岡放送 など

宿泊・生活関連サービス・ 娯楽業

東映
星野リゾート
キョードー東北
ニューオータニ など

情報・通信業

KDDI
ソフトバンク
日立ソリューションズ
富士通エフ・アイ・ピー
第一生命情報システム など

製造・電力業

日立製作所
ソニー
三菱電機
三菱重工業
富士重工業
スズキ
デンソー
ヤマハ
日立メディカルコンピュータ
日立ハイテクノロジーズ
東洋製罐
日本ハム
丸美屋食品
デサント
テルモ
日立金属
住友金属鉱山
九州電力
北陸電力 など

運輸・同サービス業

日本航空
全日空
エイチ・アイ・エス
JTB
ケイラインジャパン
東日本高速道路 など

住宅・建設業・不動産業

鹿島建設
三井ホーム
積水ハウス
大東建託
ポラス
JPハイテック
日比谷総合設備
東急不動産
フージャースコーポレーション
東京建物
森ビル
コスモスイニシア
ホンダ開発 など

調査・コンサルティング・ 広告代理店

アクセンチュア
野村総合研究所
富士通総研
博報堂
電通テック
船井総合研究所
キャップジェミニ
ジェイエイシーリクルートメント
富士経済
アビームコンサルティング
ビルコム
NTTデータ・フィナンシャル・
ソリューション など

商社・小売業

住友商事
丸紅
三菱商事パッケージング
三菱商事マシナリ
日新商事
日立金属商事
JX金属商事
ヤマトインターナショナル
協栄産業
ローソン
ニトリ
昭和シェル石油 など

国家公務員

総務省
経済産業省
国土交通省
農林水産省
防衛装備庁
警察庁
厚生労働省
人事院
さいたま地裁
東京高裁管轄裁判所
長野家庭裁判所
国立国会図書館 など

地方公務員

●都道府県庁
東京／茨城／埼玉／静岡／
群馬／埼玉／千葉／大阪 など
●市役所
名古屋／横浜／さいたま／
つくば／千葉／川口／川崎
など
●警察本部
警視庁／茨城 など

教育研究機関・ 独立行政法人・教育サービス

千葉大学
宇都宮大学
高エネルギー加速器研究機構
海洋研究開発機構
科学技術振興機構
国立印刷局
高齢・障害・求職者
雇用支援機構
日本司法支援センター
早稲田アカデミー
学研エデュケーショナル など

業界団体等

日本自動車連盟
日本医師会 など

進学 (大学院)

筑波大学
東京大学
東北大学
一橋大学
京都大学
神戸大学
名古屋大学
早稲田大学
慶應義塾大学
明治大学
ウィスコンシン大学
ESSEC Business School など



宿舎に入居している学生を中心として、毎年5月末に開催される宿舎祭。参加の充実感120%。



新入生がキャンパスを飛び出して、アメリカンセンターJapanを訪れた時のものです。



フレッシュマン・セミナーで、サイバーダンススタジオに出かけ、世界初のサイボグ型ロボット「ロボットスーツHAL.A.N.」を体験した時のひとコマです。

「社学生」の

生活

Campus Life

主に社会学類生で構成されるサークルの桐政会では、社会・政治問題を熱く議論します。



フレッシュマン・セミナーでは充実した学習内容が用意されています。これは環境学習の際の写真です。



11月に行われる学園祭「雙峰祭」の様子です。一般のお客さんとサークルや学類の屋台で賑わっています。毎年大変盛り上がる筑波大学最大のイベントです。

中央図書館です。図書館内にはテイクアウト可能な喫茶店もあります。試験期間前になると多くの人が課題に追われて図書館を利用します。

「STUDENT PLAZA」

ここでは「就職課」などがあり、就職活動に関する様々な資料が詰まっています。



入学案内

入学定員 1 学年 80 名（国費留学生は別枠）／編入 10 名

1	推薦入試	募集人員 16 名 試験時期 11 月下旬 試験科目 小論文および面接
2	一般入試	募集人員 前期 64 名 試験時期 大学入試センター試験…… 1 月中旬 個別学力検査… 前期 2 月下旬 ▽ 個別学力検査の試験科目 前期 ●外国語 (英、独、仏、中の中から 1 科目を事前選択) ●数学(数Ⅱ・数 B)、国語(現代文 B・古典 B)、 地理歴史(世界史 B、日本史 B から 1 科目を選択) の中から 1 教科を事前選択
3	私費外国人 留学生入試	募集人員 若干名 試験時期 2 月下旬 試験科目 小論文および面接
4	帰国生徒 特別入試 (10 月入学)	募集人員 若干名 試験時期 7 月 試験科目 小論文および面接
5	編入学試験	募集人員 10 名 試験時期 2 月下旬 試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語および面接
	問い合わせ先	筑波大学 教育推進部 入試課 Tel. 029-853-6007 なお、募集要項の発表は、毎年 9 月下旬です。 ※詳細は以下の URL まで http://www.tsukuba.ac.jp/general/index.html http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html

※平成 32 年度入試より、私費外国人留学生入試・帰国生徒特別入試(10 月入学)は廃止となります。



筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2018 年 6 月 30 日 初版一刷発行 禁無断転載

編集委員 学類長：平沢 照雄
社会学類広報委員：野上 元(委員長)、明石 純一、守田 智保子、高橋 秀直

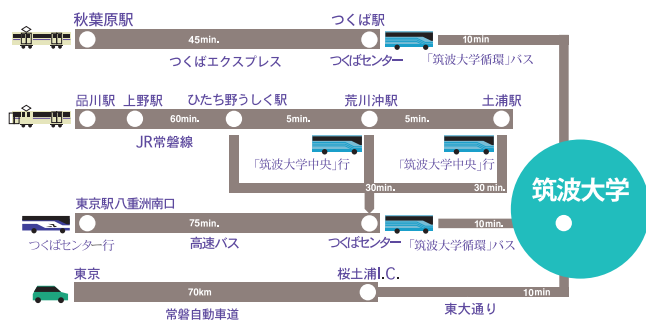
企画・編集 社会学類広報委員会

デザイン 松澤 康行
写真 後藤 さくら

発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>

印刷・製本 株式会社いなもと印刷

社会学類への招待



筑波大学へのアクセス | Access

◎つくばエクスプレス

- 「秋葉原駅」から「つくば駅」まで最速45分
「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス(10分)または「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎高速バス

- 「東京駅八重洲南口」から「筑波大学」行きバス(約75分)
- 「東京駅八重洲南口」から「つくばセンター」行きバス(約65分)
「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス(10分)または「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎JR常磐線

- 「ひたち野うしく駅」東口バスターミナルから「筑波大学中央」行きバス(40-50分)「第一エリア前」下車
- 「荒川沖駅」西口バスターミナルから「筑波大学中央」行きバス(30-40分)「第一エリア前」下車
- 「土浦駅」西口バスターミナルから「筑波大学中央」行きバス(35-40分)「第一エリア前」下車

